

「2009年版中堅・中小企業のPCサーバ導入実態と展望」を発刊

株式会社ノークリサーチ（本社〒120-0034 東京都足立区千住1-4-1 東京芸術センター1705：代表 伊嶋謙二 03-5244-6691 URL：http://www.norkresearch.co.jp）は中堅・中小企業市場におけるPCサーバ販売動向を知る上で必須の年刊レポートの最新版「2009年版中堅・中小企業のPCサーバ導入実態と展望」を発刊した。

- 基幹系用途で依然強みを発揮する富士通とNEC
- 認証管理システム用途は新規導入が期待できる数少ない分野の一つ
- 依然として残るシングルコアサーバ、マルチコアへの切り替え促進策が必要
- 2002年以前に導入されたレガシー資産のマイグレーションが大きな課題

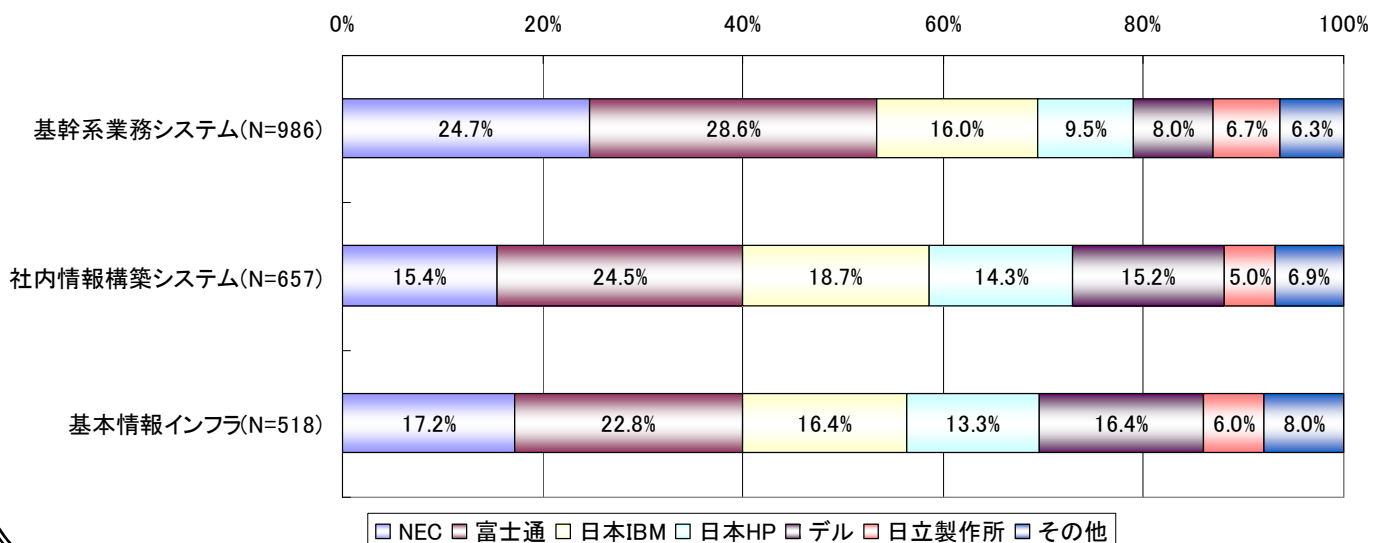
一 基幹系用途で依然強みを発揮する富士通とNEC

本調査レポートではサーバの用途を8項目に分類し、それらの用途毎にサーバベンダ比率、導入時期、購入先、OS、GPUタイプ、サーバ形状といった様々な項目について尋ねた結果を詳細に分析している。以下のグラフは用途毎のサーバベンダ比率に関するデータの一部をグラフ化したものである。

基幹系業務システム用途では、NECや富士通といった国産ベンダが依然として強みを発揮しており、オフコン時代に培った顧客基盤の多くがPCサーバ市場にも受け継がれている状況が改めて確認できる。日本IBMと日本HPも基幹系システムへの導入事例を徐々に増やしてはいるが、全体傾向に現れるほどの大きな変化にはまだ至っていない。

価格面で攻勢を続けるデルに関してはファイルサーバなどの非ミッションクリティカルな用途での利用が比較的多く、基幹系業務システムや社外システムといった用途での比率はまだ低い。

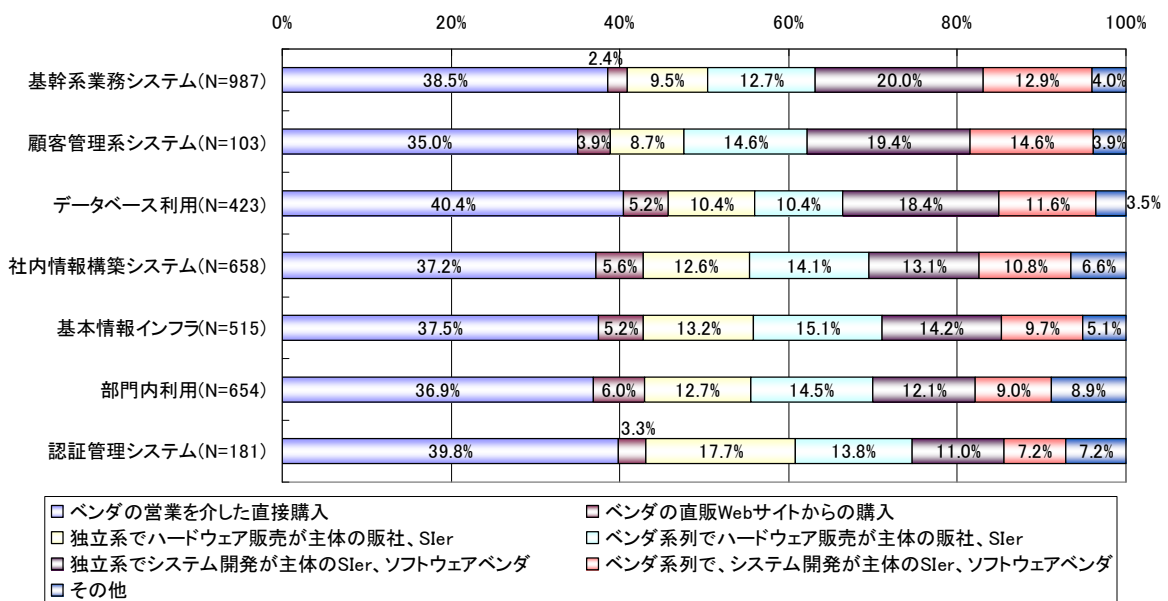
用途毎のサーバベンダ比率



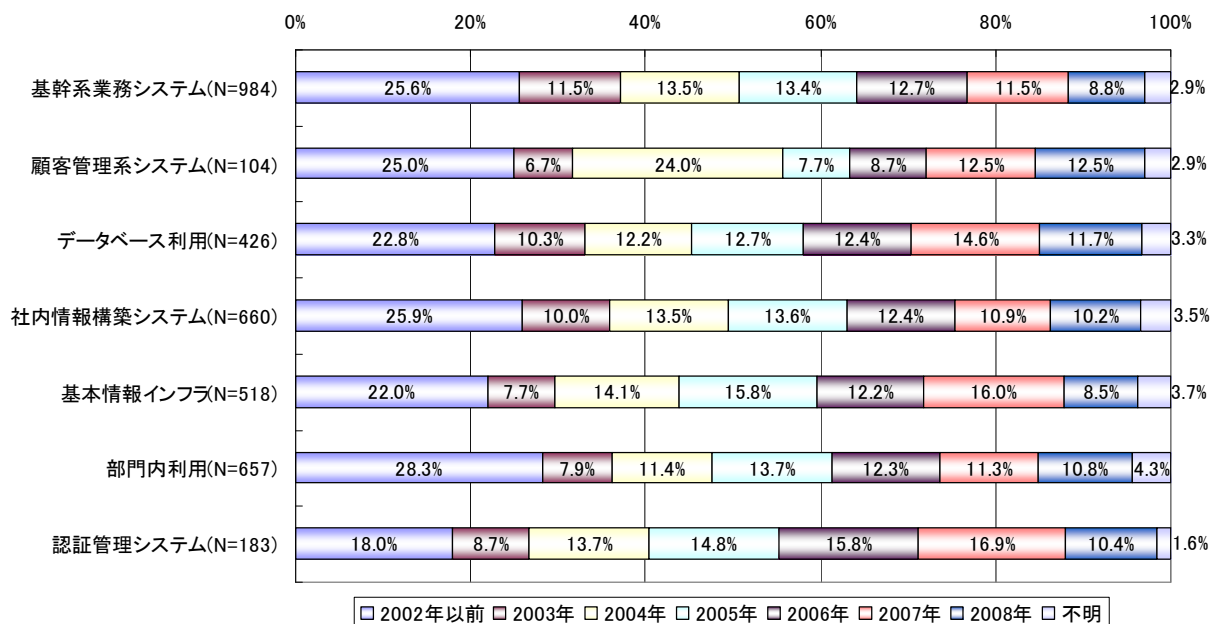
一 認証管理システム用途は新規導入が期待できる数少ない分野の一つ

サーバの用途毎にサーバの購入先及び導入年がどのような傾向を示すかをまとめたものが以下の二つのグラフである。基幹系業務システム/顧客管理システム/データベース利用といった用途では、システムインテグレーションを伴うことが比較的多い。そのため、サーバ購入先ではシステム開発を主体とした販社やSIerの占める割合が高くなっている。一方、社内情報構築システム/基本情報インフラ/部門内利用といった用途ではその逆の傾向を示している。これらの用途は基幹系業務システムの付加的要素として導入されてきた経緯もあるため、ベンダ系の販社やSIer経由での購入が占める割合が若干ではあるが高くなっている。認証管理システムは比較的導入された時期が新しい用途であるため、システムインテグレーションはあまり伴わないにも関わらず、非ベンダ系の販社やSIerを通じた購入が比較的多い。つまり、ベンダ色がまだ強くない用途ということが出来る。セキュリティ対策を必要とする中堅・中小企業がOS付属の認証管理システムを活用するなどのニーズを喚起すれば、新規のサーバ導入へ結び付けられる可能性がある。

用途毎の購入先の傾向



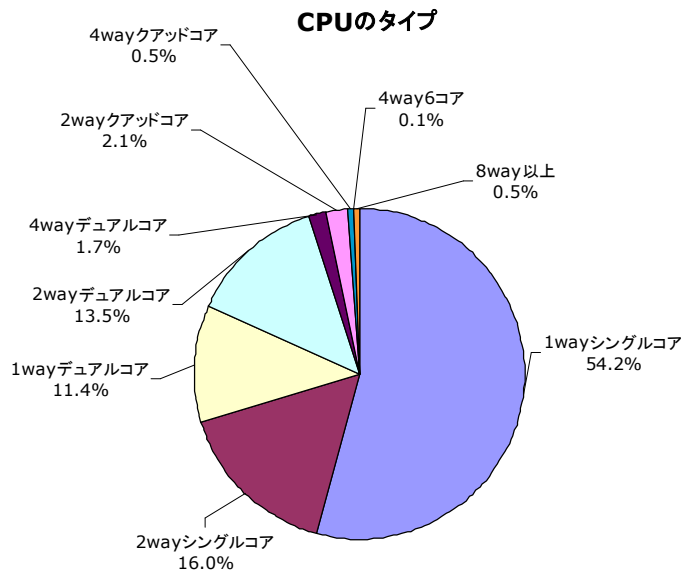
用途毎の導入年の傾向



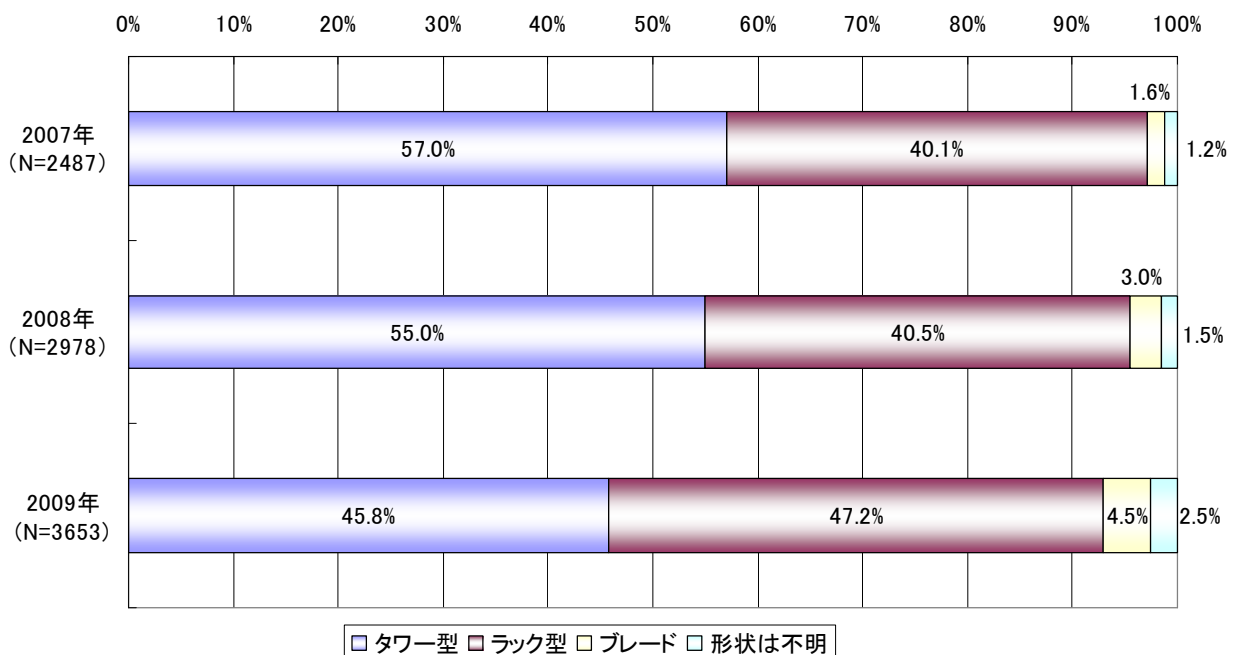
－ 依然として残るシングルコアサーバ、マルチコアへの切り替え促進策が必要

新規のサーバに搭載されるCPUはマルチコア化が進んでいるが、ユーザ企業で導入されているサーバではシングルコアがまだ多い状況である。中堅・中小企業が利用する業務アプリケーションにはマルチコアのメリットを享受できるものがまだ少なく、ユーザの導入意向を尋ねた結果においてもマルチコアに対するニーズは高いとはいえない。サーバベンダとしては仮想化など、マルチコアのメリットが十分生きてくるソリューションを訴求していくことが求められる。

サーバ形状に関してはブレードの伸び率がやや鈍化してきている。ラック型の搭載可能CPUコア数が増え、仮想化用途に用いられるケースも増えたことや、Sierはベンダ依存度の低いラック型を好む傾向にあるといった今回の調査結果以外からも得られる各種の情報を加味すると、今後ブレードとラック型の伸び率は同程度になると予想される。



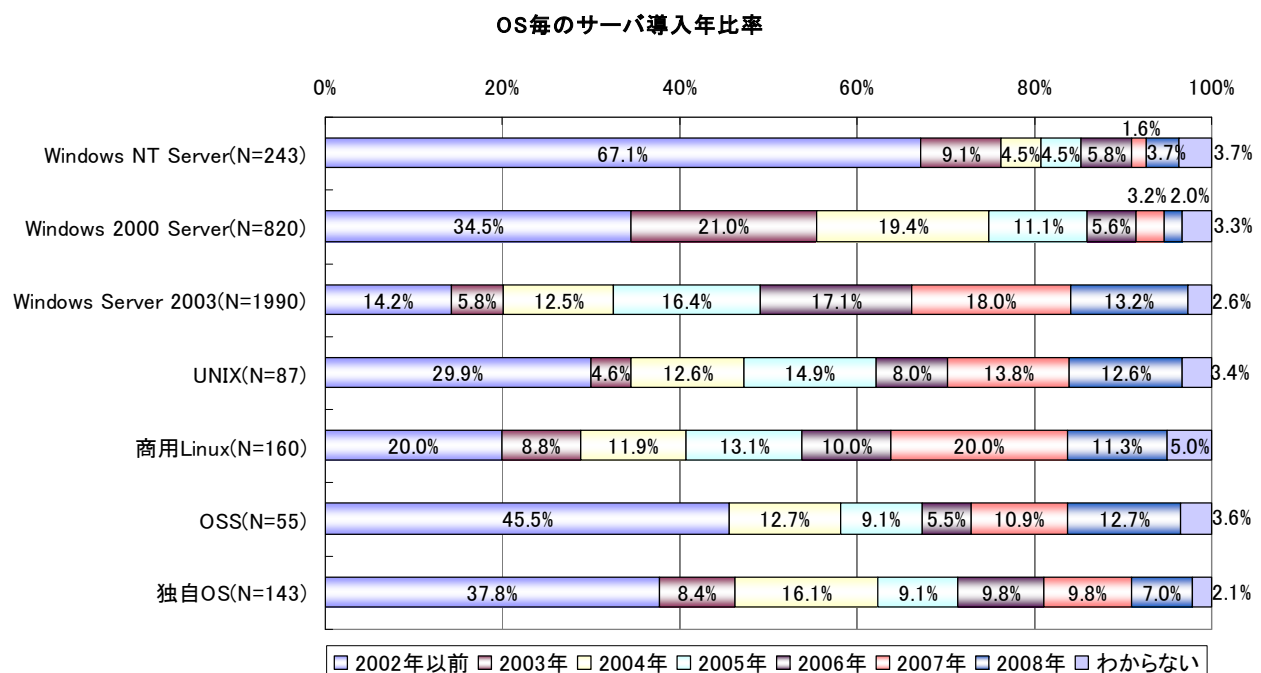
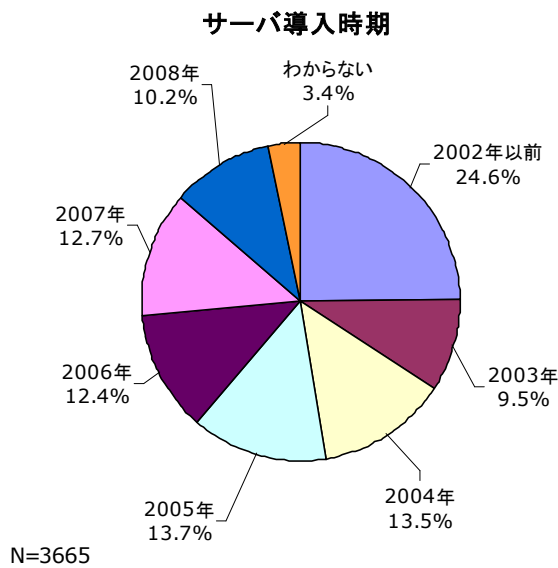
サーバ形状比率の変化



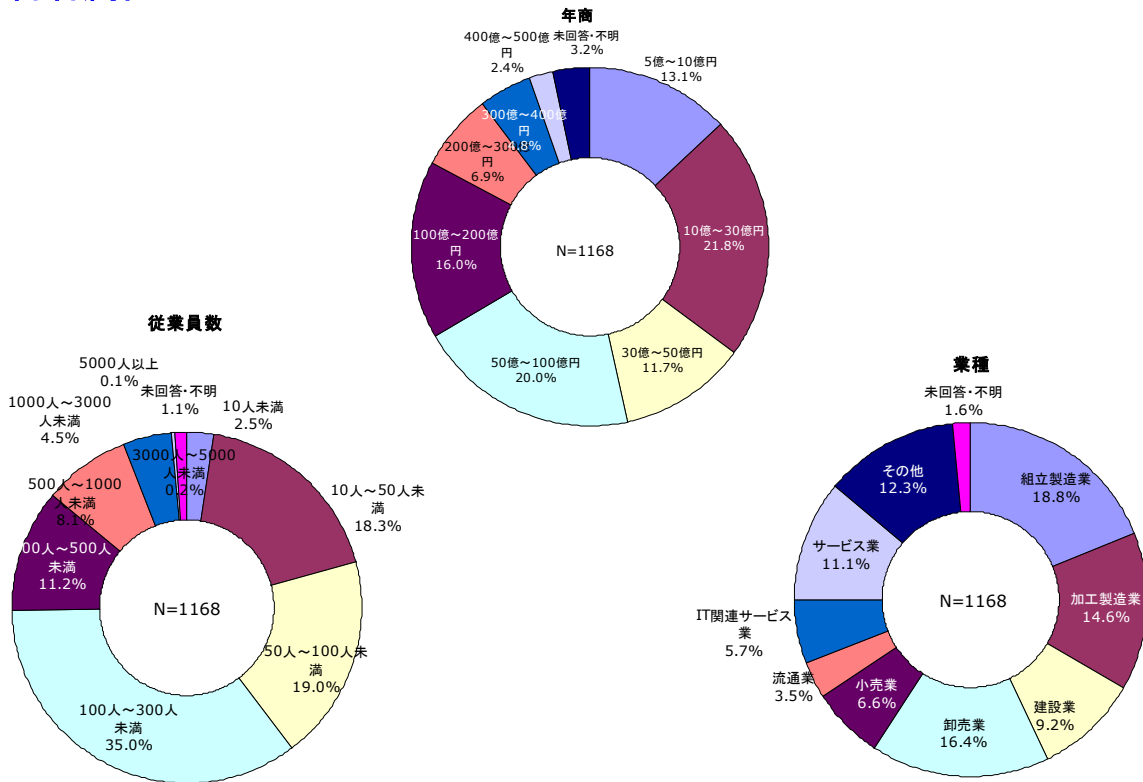
ー 2002年以前に導入されたレガシー資産のマイグレーションが大きな課題

2002年以前に導入されたWindows NT Serverを主なOSとするレガシー資産が前回2007年調査に引き続き、大きな課題として残っている。2008年後半に本格的な普及が始まると予想されるWindows Server 2008には仮想化ハイパバイザである「Hyper-V」が搭載されるが、Windows NT Serverはサポート対象外となっている。また、2002年以前に導入されたサーバで利用されているOSには独自OSも多く、その多くはメインフレームやオフコンであると推測される。

こうしたレガシー資産を移行させることは容易ではないが、仮想化技術の普及によってハードルは従来よりも下がりつつある。サーバベンダとしてはヴイエムウェアやシトリックス・システムズ・ジャパンといった仮想化ベンダとの協業も含め、ユーザ企業が無理なく実施できるレガシー資産のマイグレーション手段を検討する時期に差し掛かっていると考えられる。



— 回答者属性 —



調査概要

【対象企業】全国の年商5億円以上～500億円未満の民間企業7000社
 【有効回答数】1168社
 【調査方法】郵送アンケート
 【調査実施期間】2009年1月～3月

レポート概要

【発刊日】2009年4月13日
 【仕様】体裁：ハードコピー版(A4判約100ページ)/CD版(Microsoft Word/Excel形式)
 【価格】99,750円(税込)
 【概要】

- サーバ利用用途(基幹系、情報系、インフラ系など8項目)毎のPCサーバ活用実態に関する以下の項目
- ・主な利用部門
 - ・導入時期、ベンダ名、購入先
 - ・OS、CPUタイプ、形状(タワー型、ラック型、ブレード)
 - ・導入の経緯(新規、追加、ダウンサイジング、リース切れなど)
 - ・購入先評価(導入前の情報提供、導入前後の顧客対応、見積の正確さと速さ、価格、品質など)

本リリースに関するお問い合わせ

NORKRESEARCH

株式会社ノークリサーチ

担当: 岩上由高

東京都足立区千住1-4-1東京芸術センター1705

TEL 03-5244-6691 FAX 03-5244-6692

inform@norkresearch.co.jp

<http://www.norkresearch.co.jp/>